

日時：令和元年6月20日（木）14時00分～15時30分

場所：本校校長室 記録：阿尾

1. 校長挨拶／運営協議会会長選任

- ・会長 一 河内 正行 （関西福祉科学大学入試広報部参事）

2. 会長挨拶

3. 委員紹介及び配布物の確認

- ・河内 正行 委員 （関西福祉科学大学入試広報部参事）
- ・勝山 正樹 委員 （近畿大学入試センターアドミッションオフィサー）
- ・寺脇 啓介 委員 （東大阪市立義務教育学校池島学園校長）
- ・高田 茂夫 委員 （新池島町自治会長）
- ・仲津 幹子 委員 （めだかこども園園長）
- ・林 覚 委員 （PTA会長）

4. 学校運営協議会 実施要項

○学校協議会から学校運営協議会の主な変更点

- ・第3条 職員の採用その他の任用に関して、教育委員会に意見を述べることができる。
- ・第4条 学校運営等に関して、校長に意見を述べるができる。
- ・第6条 協議会の委員は6名とする。保護者、地域住民、学校の運営に資する活動を行う者、学識経験者、に該当する者を少なくとも各1名を含めるものとする。

5. 平成30年度学校評価 及び 令和元（平成31）年度学校経営計画【校長より】

○平成30年度学校評価

- ・4つのチカラを育む
確かな学力、コミュニケーション力、課題解決力、地域貢献力
- ・中期的目標
 1. 確かな学力の育成
 2. コミュニケーション力の育成
 3. 課題解決力の育成
 4. 地域貢献力の育成
 5. 学校経営・運営体制の強化
- ・学校教育自己診断(平成30年12月実施)の結果と分析
- ・学校運営協議会からの意見
- ・本年度の取り組み内容及び自己評価
学校教育自己診断および授業アンケート(7月、12月実施)の結果などより

○令和元年度学校経営計画

1 確かな学力の育成

- ・授業力の向上—「主体的・対話的で深い学び」の授業
 - 「why (なぜ学ぶか)」「so what (だから何なのか)」等を考える授業づくり
 - ICT機器等を用いた授業の展開
 - 10周年記念事業で普通教室に電子黒板機能付きプロジェクターを導入
- ・授業力向上PTの取り組み
- ・進路実現の支援—基礎学力の向上のために、家庭学習を充実させる。
 - 習熟度のばらつきを少しでも改善できるように、教育産業の学習支援プログラムを活用
- ・活用学力向上PTの取り組み
- ・専門コース制の充実

2 コミュニケーション力の育成

- ・生徒指導の充実—マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
- ・ともに高め合う集団育成—学校行事等を通じて主体的な取り組みを促し、自主性・社会性を醸成する。
- ・人権尊重の教育の充実—1人ひとりを大切にし、だれもが安心して安全に学べる学校をつくる。

3 課題解決力の育成

- ・主体的・対話的で深い学びの実践—「総合的な探究の時間」では、自分の考えを発表する機会を積極的に設定する。
- ・部活動の充実—総合的に部活動は充実してきているが、加入率は5割程度。

4 地域貢献力の育成

- ・地域連携指数(対象数×回数)の増加—昨年度105、昨年度310。3倍程度の増加。
- ・情報発信PTが主導で、生徒による出前授業や地域交流の範囲を広げていく。

5 学校経営・運営体制の強化

- ・本校の教育課程の見直し
- ・組織改革—普通科総合選択制からコース制に改編で教員数が減少。
 - 今年度から7クラスから6クラス募集になり教員数が減少。

●質問及び意見

- ・自治会事業への参加の推進をあげていただいているので、従来の活動に加えて、新たな試みの機会を作っていければと考えています。
- ・保育園でも子どもたちが主体的に動くということができていない。そこをしっかりと上へつなげていかなければいけない。学校も大変な中取り組んでおられるので、園も改めて取り組んでいこうと思いました。社会に貢献できるこどもをつくっていきたいと思った。
- ・定量目標を達成できたかどうかを評価されているが、プロセスについての評価はされないのか？
 - 教職員には評価育成システムがあり、教職員が目標を設定し、それに対して設定面談を行う。
 - その紙の中に、プロセスなども入っている。9月頃には進捗状況、年度末には達成状況を振り返る。
 - 個人としては、PDCAがわかるようになっている。ただ、文字にできない部分もあり、それがとても大切な部分である。それを評価につなげるのであれば、管理職がアンテナを張って、教職員と話し合いながら、把握していくことが大切である。

6. 本年度の重点目標等について 【各学年主任および5分掌長より】

①1 学年—7クラスが6クラス募集になったので、全体に2割減で考えている。

時間を守る…遅刻回数を年間400件以下にする。(昨年度の1年は500件)

4・5月で十数件程度なので、このままいけば十分達成できる。

家庭学習の充実…学習支援プログラムを活用して家庭学習の習慣づけを行っていく。

人文探究コース45名、子ども保育コース15名程度を目標とする。

②2 学年—生活習慣等に関しては、3年間を通して継続して取り組んでいく。

修学旅行に関して屋久島を計画しているが、先日の大雨で通行止め等の件は、業者と連絡を取りながらすすめたい。屋久島の自然と鹿児島島の知覧での平和学習、桜島の火山等を学んでもらいたいと考えている。夏休みには事前学習にも取り組んでいきたい。

修学旅行後は、学年末に向けて自分の進路目標を定めるように指導していきたい。

③3 学年—学年当初に3年生に向けて、「社会人として最低限の挨拶ができる、謝罪ができる、『ありがとう』が言えるようにして社会に出ていく準備をしていきましょう。また「みどり清朋」の生徒として自覚と自信をもって卒業していくこと。」と話した。

本校生徒は、中学校の時に主人公になった経験を持つ生徒が少ない。そんな中で体育大会の『清援(ダンスパフォーマンス)』で主人公になる生徒や、主人公を支える生徒たちが活躍をして自分たちのパフォーマンスを競うという取り組みが、3年生の生徒が成長したことを表現する機会となっている。また、9月の文化祭では3年生として演劇を行うことで、クラスごとにまとまりそれぞれの役割を分担して責任を果たしていくというなかで、人として必要とされているということを自覚できるようになっていく。

265名の3年生のうち160名が進学を希望。就職希望は11名位。背景に経済的な問題を持つ生徒も少なくなく、学生支援機構の奨学金説明会にクラスの約8割の生徒が参加した。借金をしながら学校へ通わなくてはならない現状がある。

●質問及び意見

・家庭学習ができないと言われたが、アルバイトが影響しているのではないかと。また、スクールソーシャルワーカーの活用についての記載があったが、アルバイトの率も含めて現状を教えてください。生活支援そのものを必要とされる生徒もおられるのではないかと。

→アルバイト率は昨年の調査で約50%。スクールソーシャルワーカーは重要な存在になっている。

・この地域の子どもたちは、これまでに出会ってきた子どもたちと違って、素直に一生懸命に取り組む。生徒指導上もとても落ち着いている。ただ、与えられたことには一生懸命に取り組むが、中学校を卒業後に新たな出会いの中で生きていけるのか気がかりである。義務教育学校として段差をなくすようにしてきたが、今度は意図的に段差を設けないと、高校や社会に出た時に初めて大きな段差として表出する時、子どもたちには辛いのではないかと。先ほども話があったが、東大阪の子どもたちの自己肯定感が非常に低くなってきている。この学校ではどのようにして自己肯定感をもちせる工夫をされているのかお聞きしたい。

→本校の課題でもあるが、折に触れてほめるよう努めている。体育大会の清援や文化祭はレベルの高いものをつくってくる。中心になって活動している生徒の表情を見ると、達成感や自己肯定感を感じる。生徒たちが集団となって互いに高め合っている。その体験を日常の高校生活にどうつなげるかが課題である。もう一つは、地域に出て地域とつながり、色々な経験をしていくなかで良かったという生徒が多く、またやりたいという生徒もいた。そういった機会をいかに作るかが大事。普段の授業で、“あかん” “ダメ” “を言わないで、” これもできるやん “などの肯定的な

表現をできるだけ使うようにする。それらの積み重ねが大切だと考えている。

④教務部—シラバス、教科書の検討・確認作業を行い、期限厳守で提出してもらう。

コース制4年目ということで、中身が定着してきたので、選択がスムーズにできるようにする。2022年度から新カリキュラムが始まるので、どのようにしていくのかの検討。

学級規模が7クラスから6クラスになり、それから普通科総合選択制からコース制になって、さらに教員定数が減少すると考えられるので、カリキュラムのスリム化をはかる。

その他、ミスがないように注意を促していく。

⑤生徒指導部—遅刻数はアンダー2000を目標。数年前まで4000以上あった。昨年度より本鈴1分前にメロディーチャイム(校歌)を導入した。毎月遅刻を3回すると月末に特別指導を行っているが、ここ数年は、各学年で遅刻する度に指導を行ってきたことも功を奏して数が減っているのではないかと分析する。

部活動の活性化については、教員の数、指導者の問題などで存続できるクラブが厳しくなっている現状がある。4月に行っている体験入部は、昨年まで強制にしていたが、公式戦などがある等で、今年度は希望制にした。加入率は、昨年度とほぼ変わらず、51.3%となった。部活動を通して自己肯定感の向上も図っている。体育大会では裏方としてクラブ員が自覚して動いている。今年度はリーダーを育てるために部長会議を定期的に行っているところである。

身だしなみ指導では、制服の正しい着こなし。

ノーチャイムデーを毎年行っているが、第1回目の6月15日は突風の関係で時間を遅らせる必要があったので、実施していない。

自転車通学がほぼ100%、自転車に関する事故の報告が今年度すでに4件あった。

⑥進路指導部—学習習慣の確立では、模擬試験を受験する生徒が増えてきている。

放課後講習では、最後の最後まで頑張った生徒が大学に合格してきている。

教科や学年との連携を今年度重点にする。

日本学生支援機構の予約奨学金の説明に約200名(昨年は180名)ほどが参加したが、煩雑な作業を学年の先生の協力を得て行うことができた。

⑦保健部—基本的な生活習慣の改善を第一に力を入れて取り組んでいる。

よりよい学習環境を整えるという観点から、美化活動の改善・定着ははずせない課題。

学校保健活動を展開する中で、心の教育を充実させる。

具体的には、学年で実施する保健講話において、命の大切さについてや他者を思いやる人間性をはぐくむこと等につながる内容を盛り込み、心の教育を充実させる。

教育相談委員会と連携し、健康相談活動の充実を図る。

スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活用状況は上限に達している。

スクールカウンセラーは個人の心の問題に対しての支援と教員に対しての助言をいただいている。

昨年からソーシャルワーカーさんに来ていただいて、ある生徒を取り巻く環境を整えることによって、安全に安心して学校生活を送れるようにしている。専門家の方に入ってもらったことにより、少しでも改善されたり、兄弟のいる小・中学校とも連携がとれることもある。

⑧総務企画部—タイムリーな情報発信では、携帯連絡網やホームページの活用。

中学校への広報活動では、学校説明会や中学校訪問、近隣中学校への情報発信。

P T A活動の充実では、クラス役員の選出に苦労している。P T A行事・活動への参加の推進と連携強化に努めている。

●質問及び意見

- ・学校経営計画については最後に自己評価の欄があるが、各学年・各分掌の書式で度末に自己評価はされるのか。
→次回にはこの書式の裏面に進捗状況および評価が記載されて出てくる。
- ・スクールカウンセラーについては、教育委員会からの配当分だけでされているのか。
→スクールカウンセラーは配当があるが、ソーシャルワーカーは配当がないので校長マネジメント予算で府と同じ分だけ充当したが、昨年度は足りなくなったので追加配当していただいた。

7. 平成31年度 教科書採択と方針について【教務主任】

- ・横置き資料が今年度使用教科書の一覧。2022年度から新学習指導要領が始まるということで、現行の教科書は大きな変更はない。例年と大きく変わらない状況で教科書を選定している。
- ・縦置き資料が来年度使用教科用図書選定理由書である。各教科で選定したものを次回の学校運営協議会において、教科書の見本をつけて確認していただく。教科書によっては、今年度と変わらないので、今年度の使用教科書を見ていただくことになる。

※職員実働防災訓練について

- ・昨年度実施した内容の資料配布。
- ・今年度は8月29日(木)に実施予定。地域と一体となった訓練を行いたい。

8. 次回日程

- 第2回 令和元年 10月7日(月) 午前11時より
- 第3回 令和2年 2月3日(月) 午前11時より

以上